

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	社気医療法人駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢静波		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設の名前の通り、地域交流に力を入れた施設運営を心掛けております。入所後身体的に負担が大きくなってきても関連施設との連携により長く安心して生活が出来ます。認知症は意思疎通が困難で笑顔が少なくなりがちですが、過去の生活歴を考慮しながらご利用者さんの残存能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しております。また入所に関係なくても介護にかかわる様々な相談窓口としての施設運営を目指し、施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動発展に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoYoCd=2295800078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 3年12月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人の傘下にあり、医療法人との連携により、法人医師の定期往診をはじめ、24H対応ができる医療支援体制が整えられ、利用者の健康面の支えが来ている。他に同じ法人のグループホームが2か所あることから、定期的な報告会を行い、管理者間での情報を交換し運営に活かしている。コロナ禍の中、家族との面会も制限してきていたが、令和3年10月から感染防止に注意を払いながら面会を再開して、利用者・家族の要望に応えている。食事を楽しむことを重点的に配慮して、職員は利用者の好みを聴き取り、都度食材の買い出しを行い、手作り調理にて提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ただ介護する」ということに留まらないようにしています。 地域密着型施設とは何を指すための施設なのかを話し合い、各フロアに提示し、各職員が常に繰り返し確認できるようにしています。	管理者は、月1回、各職員との個別ミーティングを行い、事業所独自の理念や個々の課題について話し合う機会を設けている。管理者・担当者・ケアマネジャーによる月1回のカンファレンスでも、理念「本人の意思が尊重され」を確認しながら介護計画を作成し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症拡大までは地域のボランティアの来訪などで地域交流を図って参りました。現在は運営推進会議を通じ防災活動や、地域交流を図っております。	コロナ禍の折り、地域交流は停滞しているが、平時においては市社協との連携のもと、ボランティア(歌唱、健康体操等)の訪問など、積極的に地域との交流を図っている。運営推進会議委員から地域活動情報を得て、利用者の参加の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて施設の活動状況を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、意見交換の中で地域の心配事や、介護保険制度の話をしております。	運営推進会議は、コロナ禍の中、書面開催となっているが、感染状況により、感染防止対策を徹底しながら再開を予定している。運営推進会議議事録を各委員に報告をするとともに、委員から提示された助言を事業所の運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政や包括支援事業所の方にも参加をいただいております。	運営推進会議を通じて、牧之原市担当者・地域包括支援センター担当者等と連携を図るとともに、常に事業所の運営に活かす意見交換ができる関係構築を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な話し合いで分かりにくい身体拘束の行為についても話し合っています。	身体拘束適正化委員会を2か月に1回開催し、新入職員研修のほか、年2回テーマを決めた職員研修会を行い、「身体拘束ゼロ宣言」を実践している。身体拘束に関する指針、マニュアルを整え、身体拘束適正化委員会名簿も法人本部の医師を委員長にして作成している。	

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあってはならない行為です。施設内に監視カメラも設置しています。管理者が厳しくチェックしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で行政から権利擁護の説明を頂いています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」などと施設とご利用さんが揉めてしまうのは、入所前の説明不足によるものです。細かな事でもご利用さんの立場になり、説明をしています。またそれが一番揉めてしまうことを回避出来る近道です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時になるべくご利用者さん家族と会話することを心掛けております。何気ない会でも家族が抱えている不安や施設に対する思いも確認できる時があります。	コロナ禍ではあるが感染防止を徹底して、令和3年10月から家族の訪問面会を再開した。管理者は、毎月利用者の様子を記載した手紙「～月の様子」や、SNSを活用して利用者の様子を家族へ伝えながら、家族からの要望・意見等の吸い上げを図り、事業所運営に反映している。	コロナ禍により、家族からの要望や意見の吸い上げ等、家族との関係が希薄になっていることから、年1回程度、家族向けに運営に関するアンケートを行い、関係の維持や運営の改善点を見出すキッカケにすることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を開催し、介護報酬や処遇改善金についての話し合いの場を設けています。	管理者は、月1回職員との個別ミーティングを行っており、職員の意見や悩みについて吸い上げる場を設けている。職員は、自ら業務に対する「目標チャレンジカード」を提出し、年2回の人事考課の際の評価に活かす仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」を導入し、各職員が目標設定を行い業務についてやりがいや、考える力を養っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で開催している会議に参加し、職員のスキルアップを図っています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業連絡会に参加し、意見交換の場を設けています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族との面談を密に行い、施設入所への理解を深めています。納得してご入所していただかないと、後々困ることが多くなります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族さんが今抱えている不安にしっかり耳を傾けて施設で取り組める事や、すでに取り組んでいる事をしっかり話し合い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談=入所ではなく、本人や家族の置かれている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても模索し、親身になり相談を受けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒に作る事や、買い物のお手伝いをしていただくなど、一緒にできる事は一緒に行います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際など些細な場面でもなるべくご家族とお話するようにしております。その際に最近の様子をお知らせするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでのかかりつけ医との関係をなるべく切ることがないように出来る限りの支援を続けていきます。	コロナ禍ではあるが、家族や友人など馴染みの人の来訪も多く、感染防止を徹底して来訪者の受け入れを実施している。職員は、かかりつけ医(歯医者・眼科)の通院や美容院利用での外出など、感染症対策に留意しながら、利用者個々に合わせた支援を心掛けている。	

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者さん同士が交流できるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遠慮なく声掛けしていただけるように関係づくりに力を入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を配置し、ご利用者さんの意向の把握に努めています。その後スタッフ会議などで各職員が解決出来ない問題は話し合い解決できるような環境整備を整えています。	入居前の利用者・家族の思いや希望について、管理者・ケアマネジャーは「情報シート」にまとめ、介護計画作成に反映している。入居後は、利用者ごとに担当職員を決め、管理者や他の職員と情報を共有しながら、利用者・家族の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問を行い、本人の意向や趣味を取り入れたサービス展開に力を入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の事前調査で本人がそれまで過ごしてきた生活スタイルをなるべく崩さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が、スタッフ会議などで意見交換を行い、それぞれの職員が忌憚のない意見交換が出来るように配慮しています。	月例カンファレンス会議では、管理者・担当職員・ケアマネジャーを中心に利用者の状態について意見交換を行い、介護計画作成時に反映している。管理者は、職員との個別ミーティングにおいても意見交換を図り、情報共有してモニタリングに反映できるように心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも連絡ノートを活用して問題点を即座に改善できるように努力しています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルの施設生活の提供をするのではなく、個々の状況に合わせた過ごし方を提供しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や、ボランティアさんを活用し、本人の残存能力が発揮できるように支援しています。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度病院より医師が往診に訪れ、ご利用者さんの体調管理について相談に乗って頂いております。往診では検査しきれない状況は甲賀病院へ受診をして適切な処置を行います。	本部の医療法人医師による月1回の往診と、週1回の看護師訪問により、利用者の健康管理を実施している。医師や看護師からの情報は、管理者・職員と共有して支援に当たっている。他科への通院は、家族と連絡を取りながら、管理者が支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問していただき、健康の相談に乗って頂いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院と密に連絡をとり、何か心配事がある時にはすぐに相談できるように配慮しています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の対応などについて十分話し合い、当施設でできる事や、関連施設の活用など説明をしています。かかりつけ医にも同様の説明を行い、医師の考えも参考にしながら家族への対応を考えています。	重度化や終末期における事業所の対応は、「利用者の重度化した場合の対応に係る指針」を示して入居時に丁寧に説明し、同意を得ている。運営法人が医療法人であることから、終末期には法人本部と連携しながら支援に当たる体制を整えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で緊急時の対応について勉強しています。	

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。当施設にはスプリンクラーの設置もあり、法人内でも防災訓練についての会議や研修を頻繁に行っています。	防災訓練は、年2回テーマを決めて実施し、職員研修や法人内他事業所との意見交換を行っている。防災備蓄品は発災後7日間を想定して備蓄しており、毎月「防災自主点検チェック表」で備蓄品を管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などで個人情報の取り扱いの重要性について周知させ、職員一同個人情報の取扱いには十分気を付けております。認知症で意思疎通が困難なご利用者さんにも人格があることを忘れず、常に意識しています。	管理者は、職員の発言や行動に課題がみられた時は都度注意を行うとともに、職員との個別ミーティングの場においても細かく確認を行っている。個人情報の取扱いや利用者の尊厳について、常に職員との情報共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者さんに担当職員を配置し、ご利用者の自己決定や、自己表現出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にブレーキをかける事が無いように、「今何が出来るのか」を常に考えています。ご利用者さんの状況やその時の季節や天候などにも応じてできる事を考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は人としての動作では基本中の基本です。ご利用者が自ら整容することが困難な方は、職員が声掛けしながら丁寧に整容しています。また、衣類についても可能であれば一緒に買い物に出かけ、着る服についても自ら選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの一番の楽しみは食事と言っても過言ではありません。施設では外食の機会を多く設けています。当施設では「食事係り」が編成され、ご利用者の状況や好みを考察しています。	事業所は、食事を楽しむことを最重要なことであると考え、利用者個々の好みや希望を聞き取り、「食事係」を中心に献立作りに活かしている。食材は、住民からの野菜の差し入れや地元業務スーパーへの買い出しにより調達し、職員が手作りで提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排せつについて見やすい表にして、毎回チェックしています。収集した情報は主治医に提示し、適切な指示を頂き支援に役立てています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、就寝前には義歯洗浄剤にて清潔を保っています。 口腔ケアはおろそかにすると施設内の異臭になり、ご利用者さんも肺炎のリスクが増してしまいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導にてトイレに行き、排せつを促しています。尚、週に1度来訪する看護師の指導の下、腸のマッサージなども行い排便を促しています。	「排泄チェック表」を参考にし、トイレへの声掛け・誘導する先回りケアを心掛けている。訪問看護師の指導による腸のマッサージや食事・食材の工夫などに留意しながら、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の薬を飲んでもなかなか排せつが出来ない方が多いですが食事係が食物繊維が多い食材や、アイスや、スイカなどを工夫して提供し、排便のコントロールを考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設では毎日決まった人数の入浴を定めていません。入浴が好きな方、入浴が嫌いな方様々なご利用者さんがおります。無理強いほしないで個々のペースを大事にします。	概ね午後入浴を目途に、利用者個々の様子・希望に沿った入浴支援を心掛けている。同性介助や入浴剤を使用して、利用者が心地よく入浴できるように支援している。利用者の身体状況に合わせて入浴できるように、リフト浴も整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では就寝の時間も様々で異なります。夜遅くまでテレビを観たい方は許可しています。 居室についても火を使用するもの以外は許可し、今までの生活が継続出来るように支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服薬は目まぐるしく変化します。 当施設では受診ノートを活用し、薬の処方が変わった際にはどの職員でもすぐに変更を把握できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴から、毎日の生活が充実するように工夫しています。 些細な洗い物や、野菜の皮むき、施設の畑の仕事など多岐にわたります。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の影響で外出がなかなか困難ですが、天気の良く、暖かい日には散歩に出かけ、季節の変化や慣れた家々の散策を行っています。	コロナ感染防止のため、十分な外出支援が難しい状況であるが、天気がよく穏やかな日は事業所周辺の散歩に出掛けるなど、利用者に合わせた外気浴の実施に取り組んでいる。平常時は外食や花見等の行事を計画し、季節ごとの外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では現金の持ち込みは許可していません。しかし、本人の希望する買い物があれば一緒にお店に出かけ、欲しいものを購入しています。衣類についてもなるべく好みを尊重し、一緒に選ぶように心がけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設では携帯電話の持ち込みを許可しております。耳の遠い方は職員が手伝い支援をしています。また、手紙を書くことも促しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには極力物を置かず、危険性のない環境づくりを心掛けています。また定期的にカーテンをを交換し、温かみのある光が入るよう工夫しています。	共有空間は、フロア全体を見渡せる開放的な環境である。事業所内のカーテンは、すべてリースカーテンを利用し、3か月毎のクリーニングと1年毎の交換により清潔が保たれている。感染症防止対策として、定期的な消毒・手洗いを実践し、換気にも留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫を図り、話好きな方同志で配慮したり、逆に一人でのんびりしたい方は、日中でも居室で過ごす事を許可しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビの持ち込みや今までで使い慣れたタンス、机などを置くことができます。	ベッド・押し入れ・エアコン・カーテンを備えてある居室には、利用者が使い慣れた筆筒やテレビ等を持ち込み、利用者好みの空間づくりを支援している。担当職員が中心となり、利用者・家族と相談しながら、衣替え等を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用している方でも十分移動できる広い空間が用意されております。また、フロアは端から端まで見渡せるような設計になり、フロア→居室 居室→トイレなど自分の居室の判断やフロアの場所などわかりやすい配置になっております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295800078		
法人名	社気医療法人駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢静波		
所在地	静岡県牧之原市静波203-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800078-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型施設の名前の通り、地域交流に力を入れた施設運営を心掛けております。入所後身体的に負担が大きくなってきても関連施設との連携により長く安心して生活ができます。認知症は意思疎通が困難で笑顔が少なくなりがちですが、過去の生活歴を考慮しながらご利用者さんの残存能力を生かし笑顔が一つでも多くみられるように配慮しております。また入所に関係なくても介護にかかわる様々な相談窓口としての施設運営を目指し、施設から地域へ、地域から施設へと地域密着型施設でしかできない活動発展に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	{ただ介護する}ということに留まらないようにしています。 地域密着型施設とは何かを目指すための施設なのかを話し合い、各フロアに提示し、各職員が常に繰り返し確認できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症拡大までは地域のボランティアの来訪などで地域交流を図って参りました。現在は運営推進会議を通じ防災活動や、地域交流を図っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて施設の活動状況を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、意見交換の中で地域の心配事や、介護保険制度の話をしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政や包括支援事業所の方にも参加をいただいております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な話し合いで分かりにくい身体拘束の行為についても話し合っています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はあってはならない行為です。施設内に監視カメラも設置しています。管理者が厳しくチェックしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で行政から権利擁護の説明を頂いています。独居暮らしの高齢者が困らないように学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所後に「こんな話は聞いていない」などと施設とご利用さんが揉めてしまうのは、入所前の説明不足によるものです。細かな事でもご利用さんの立場になり、説明をしています。またそれが一番揉めてしまうことを回避出来る近道です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時になるべくご利用者さん家族と会話をする事を心掛けております。何気ない会をデモ家族が抱えている不安や施設に対する思いも確認できる時があります。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	米津面談を開催し、介護報酬や処遇改善金についての話し合いの場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「人事考課」を導入し、各職員が目標設定を行い業務についてやりがいや、考える力を養っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で開催している会議に参加し、職員のスキルアップを図っています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス事業連絡会に参加し、意見交換の場を設けています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族との面談を密に行い、施設入所への理解を深めています。納得してご入所していただかないと、後々困ることが多くなります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずご家族さんが子変えている不安にしっかり耳を傾けて施設で取り組める事や、すでに取り組んでいる事をしっかり話し合い、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談=入所ではなく、本人や家族の怒れている状況を把握し、場合によっては他のサービスの可能性についても模索し、親身になり相談を受けております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を一緒に作る事や、買い物のお手伝いをしていただくなど、一緒にできる事は一緒に行います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際など些細な場面でもなるべくご家族とお話するようにしております。その際に最近の様子をお知らせするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や、それまでのかかりつけ医との関係をなるべく切ることがないように出来る限りの支援を続けていきます。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の活動をする場面を設け、ご利用者さん同士が交流できるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	屋医書後にも遠慮なく声掛けしていただけるように関係づくりに力を入れています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者さん一人一人に担当職員を配置し、ご利用者さんの意向の把握に努めています。 その後スタッフ会議などで各職員が解決出来ない問題は話し合い解決できるような環境整備を整えています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前訪問を行い、本人の意向や趣味を取り入れたサービス展開に力を入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の事前調査で本人がそれまで過ごしてきた生活スタイルをなるべく崩さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が、スタッフ会議などで意見交換を行い、それぞれの職員が忌憚のない意見交換が出来るように配慮しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも連絡ノートを活用して問題点を即座に改善できるように努力しています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったマニュアルの施設生活の提供をするのではなく、個々の状況に合わせた過ごし方を提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や、ボランティアさんを活用し、本人の残存能力が発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度病院より医師が往診に音連れ、ご利用者さんの体調管理について相談に乗って頂いております。往診では検査しきれない状況は甲賀病院へ受診をして適切な処置を行います。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師に訪問していただき、健康の相談に乗って頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院と密に連絡をとり、何か心配事がある時にはすぐに相談できるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した際の対応などについて十分話し合い、当施設でできる事や、関連施設の活用など説明をしています。かかりつけ医にも同様の説明を行い、医師の考えも参考にしながら家族への対応を考えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で緊急時の対応について勉強しています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施しています。当施設にはスプリンクラーの設置もあり、法人内でも防災訓練についての会議や研修を頻繁に行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議などで個人情報の取り扱いの重要性について周知させ、職員一同個人情報の取扱いには十分気を付けております。認知症で意思疎通が困難なご利用者さんにも人格があることを忘れず、常に意識しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者さんに担当職員を配置し、ご利用者の自己決定や、自己表現出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務にブレーキをかける事が無いように、「今何が出来るのか」を常に考えています。ご利用者さんの状況やその時の季節や天候などにも応じてできる事を考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は人としての動作では基本中の基本です。ご利用者が自ら静養することが困難な方は、職員が声掛けしながら丁寧に整容しています。また、衣類についても可能であれば一緒に買い物に出かけ、着る服についても自ら選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者さんの一番の楽しみは食事と言っても過言ではありません。施設では外食の機会を多く設けています。当施設では「食事係り」が編成され、ご利用者の状況や好みを考察しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排せつについて見やすい表にして、毎回チェックしています。収集した情報は主治医に提示し、適切な指示を頂き支援に役立てています。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、就寝前には義歯洗浄剤にて清潔を保っています。口腔ケアはおろそかにすると施設内の異臭になり、ご利用者さんも肺炎のリスクが増してしまいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導にてトイレに行き、排せつを促しています。尚、週に1度来訪する看護師の指導の下、腸のマッサージなども行い排便を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の薬を飲んでもなかなか排せつが出来ない方が多いですが食事係が食物繊維が多い食材や、アイスや、スイカなどを工夫して提供し、排便のコントロールを考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当施設では毎日決まった人数の入浴を定めていません。入浴が好きな方、入浴が嫌いな方様々なご利用者さんがおります。無理強いほしないで個々のペースを大事にします。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	当施設では就寝の時間も様々で異なります。夜遅くまでテレビを観たい方は許可しています。居室についても火を使用するもの以外は許可し、今までの生活が継続出来るように支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者さんの服薬は目まぐるしく変化します。当施設では受診ノートを活用し、薬の処方が変わった際にはどの職員でもすぐに変更を把握できるように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴から、毎日の生活が充実するように工夫しています。些細な洗い物や、野菜の皮むき、施設の畑の仕事など多岐にわたります。		

静岡県(グループホーム実夢静波)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の影響で外出がなかなか困難ですが、天気の良く、暖かい日には散歩に出かけ、季節の変化や見慣れた家々の散策を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では現金の持ち込みは許可しておりません。しかし、本人の希望する買い物があれば一緒にお店に出かけ、欲しいものを購入しています。 衣類についてもなるべく好みを尊重し、一緒に選ぶように心がけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設では携帯電話の持ち込みを許可しております。耳の遠い方は職員が手伝い支援しています。また、手紙を書くことも促しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには極力物を置かず、危険性のない環境づくりを心掛けています。また定期的にカーテンをを交換し、温かみのある光が入るよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫を図り、話好きな方同氏の方で配慮したり、逆に一人でのんびりしたい方は、日中でも居室で過ごす事を許可しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビの持ち込みや今まで使い慣れたタンス、机などを置くことができます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用している方でも十分移動できる広い空間が用意されております。また、フロアは端から端まで見渡せるような設計になり、フロア→居室 居室→トイレなど自分の居室の判断やフロアの場所などわかりやすい配置になっております。		